普及活動情勢報告(平成19年9月分)

女性農業者も、家族一丸となって経営目標を持とう!

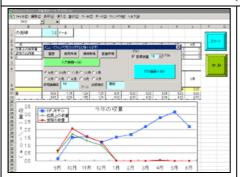


今のままで良いのか? もう一度立ち止まって経営を考え直そう

安芸集出荷場女性部の総会が8月21日に開催された。これに合わせて当センター経営担当から、「経営の話」と題した講演を行った。内容は、これまで男性中心に広げて来た「ナス18トンどり」の意義を女性にも理解して貰うこと。そのためには、女性も含めて家族一丸となって目標を持った栽培・経営管理を行う必要があることを話した。参加者からは「最近、あちこちで"18トン"という数字を聞く。これまで収量よりもお金ばかり気にしていたが、意識が変わって来だした。」と言う声も聞けた。

栽培担当者からは、今園芸年度のナス部会や地区会の活動計画を 説明し、「女性にも積極的に栽培講習会に参加して貰いたい。皆でナ ス産地を盛り上げて行こう!」と呼びかけを行った。

ナスの収量把握ソフトを開発



誰でもすぐに使えるよう、 マニュアルも作っています

現在、安芸では「目指せ、反当18トン!」をキャッチ・フレーズにナス栽培指導に取り組んでいる。しかし、実際には収量を把握できている農家は少ないのが現状である。そこで、当センターではパソコンを持つ農家向けに、 JAや市場の伝票を見ながら規格別の口数・金額を入力し、月別の収量や18トンモデルとの比較をグラフ化させる「ナス収量把握ソフト.xls」を開発した。

まずはJA安芸市青色申告会員への配布・指導から行っていくが、他にも広く使って貰えるようPRU、HPでのダウンロードなども考えていく。

北川村ユズ産地の振興をめざし、第二回地区座談会の開催



北川村では、ユズ産地の振興ビジョンを推進するため、第2回地区座談会が村6地区で開催された。内容は第1回の座談会を受け、栽培技術向上や苗づくり等を柚子部研究会活動のなかで強化したことの報告や、経営改善に向けワンランクアップの営農を提案した。また、ユズ酢の搾汁率向上や、安全安心なユズ酢加工施設についても議論された。さらにビジョンを具現化するために、高知県版集落営農(イメージ)を紹介し、集落で話し合うように提案したところ、3カ所の集落から要望があがった。

今後は、地区座談会の話の結果を活かしながら村全体での課題に 取り組みながら、手があがった集落で座談会を開催し、住民活動へ と働きかけていく。

北川村のユズ苗木は村内で、接木講習会!!



ユズの需要が多くなるにつれ、農家の改植、新植が多くなり、一昨年から苗木が不足する状況にある。柚子部で圃場を構え、村内の苗木は自ら構えようということで、果樹試験場、苗木業者などの協力を得て、生産者に接木技術を習得してもらうため、接木講習会を8月29日に開催した。暑い中、35名の参加があり、各自1本以上ということで、初めての方にもナイフを持ってもらい体験してもらった。ケガ人なし(良かった)。

はじまりました、北川村で集落座談会 in 久府付



9月18日、北川村で初めて、集落営農についての集落座談会が開催され、27名の村人が集まった。はじめに、農業振興センターから集落営農のしくみを説明するとともに、農地の問題、水稲など農業経営の費用の問題等を解決するように提案した。集落のリーダーからは、集落の農地の現状を塗り分けた農地の地図を使って現状の説明があり、農地・有効利用としてユズの新植や露地野菜栽培が提案され、40aのユズの新植希望があった。また、新規就農者2名の出席があり、地域の人とのふれあいができた。今後は、集落推進協議会を発足し、定期的に話し合っていくことが決定された。集落営農組織が発足するように、総合的に支援をしていく。

地域のまとまりづくりを目指してナスの地区別講習会



9月3日~6日、20日の5日間、安芸集出荷場管内の農家を対象に4地区で講習会を行った。会は、地域のまとまりづくりの一環としてJAと一緒に行ったもので系統、系統外の農家合わせて73名が参加した。本園芸年度、ナス部会では産地の収量目標18tを掲げていることから、講習会では多収の阻害要因となっている初期の樹づくり、タバココナジラミ、すすかび病の防除について説明を行った。また、川北地区では予め18t達成を目標に設置した展示圃を農家18名で見て回り、初期の灌水管理、生育診断などについて熱心な意見が交わされた。次回の地区別講習会は、11月に行う予定である。

今年の作付情報を、HPで情報発信!



新たな園芸年度が始まり、9月上旬にはほぼ全部のナス農家で定植作業が完了した。当センターHPでは、新たに「土佐鷹栽培情報」と題して、時期ごとの栽培ポイントや実証圃の調査結果を随時お知らせしたり、昨園芸年度に引き続き、毎月2回の「ナスの生育状況」を速報として掲載している。農家はもちろん市場関係者や消費者に、リアルタイムで産地の情報を提供していきたい。

(H P http://www.nogyo.tosa.net-kochi.gr.jp/kikan/aki/)